

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年前期	2	3	必修（教職選択）
担当教員			
脇坂 圭一・長尾 亜子・水野 芳康・日高 恵里香			
添付ファイル			
講義概要			
建築設計とは、空間を構想し、かたちを与えていく作業である。本講義では、その一連のプロセスを学ぶことで、社会性や敷地周辺環境（歴史、コンテクスト、光・風などの自然現象、サステイナブル・デザイン手法）、構造（物理的制約）を踏まえながら、自らのアイデアを空間デザインとして結実させる訓練を行う。具体的な機能として、比較的、小規模な空間を対象とした設計演習に取り組む。前半課題は公民館（コミュニティセンター）、後半課題はアートギャラリーとして美術活動を核とした地域交流を促す建築型を対象とする。計画敷地は実在の場所に設定する。単に機能を満たすだけではなく、建築のあり方を根本から見直す独創力も身につける。講義を通じて著作権について学ぶ。 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。			
授業計画			
1	建築設計課題「アート・コンプレックス」－1 ガイダンス - 全体ガイダンスとして、建築学に対する設計演習の学問上の位置づけ、および建築学科カリキュラムにおける位置づけの説明。 - 建築設計課題「アート・コンプレックス」の課題内容を提示する（AL①、②）。 - 講師によるショートレクチャーを行う。 - 準備学習：建築専門書や専門雑誌で類似事例のリサーチを行う。 - 課題：敷地調査を行い報告書にまとめる。作家の調査を行う（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
2	建築設計課題「アート・コンプレックス」－2 エスキース 1 - 敷地調査内容を発表する（AL⑤）。 - 作家の調査内容を発表する（AL②）。 - 準備学習：敷地調査内容をまとめ、全体構想案を作成する。建築専門書や専門雑誌で類似事例のリサーチを行う。 - 課題：敷地模型、スタディ模型とスケッチを作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
3	建築設計課題「アート・コンプレックス」－3 エスキース 2 - 全体構想を立案する（AL①、AL②、AL③） - 準備学習：授業2を受け、全体構想案をまとめるためにスタディ模型とスケッチ（ブロックプラン、平面・断面スケッチなど）を作成する。 - 課題：敷地模型、スタディ模型とスケッチを作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
4	建築設計課題「アート・コンプレックス」－4 エスキース 3 - スタディ模型とスケッチを元に全体構想を更に深く考える（AL①、AL②、AL③） - 準備学習：授業2～3を受け、全体構想案をまとめるためにスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 - 課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
5	建築設計課題「アート・コンプレックス」－5 エスキース 4 - スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を元に全体構想を更に深く考える（AL①、AL②、AL③）。 - 準備学習：授業2～4を受け、更に全体構想案をまとめるためのスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 - 課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
6	建築設計課題「アート・コンプレックス」－6 エスキース 5 - スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を元に全体構想を更に深く考える（AL①、AL②、AL③）。 - 準備学習：授業2～5を受け、更に全体構想案をまとめるためのスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 - 課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
7	建築設計課題「アート・コンプレックス」－7 エスキース 6 - 各図面のプレゼンテーションボードを作成する（AL①、AL②、AL③）。 - 準備学習：授業2～6を受け、各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成する。 - 課題：各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成する（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		
8	建築設計課題「アート・コンプレックス」－8 講評会、建築設計課題「こどもの居場所」－1 - 建築設計課題「アート・コンプレックス」の課題書を提出し、講評会を行う（AL①、AL②、AL③）。 - 準備学習：授業2～7を受け、各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成し、提出する。 - 建築設計課題「こどもの居場所」の課題内容を提示する（AL①、②）。 - 準備学習：建築専門書や専門雑誌で類似事例のリサーチを行う。 - 課題：敷地調査を行い報告書にまとめる（AL④）。詳しくは課題書で指示する。		

	9 建築設計課題「こどもの居場所」ー2 エスキース1 ・類似事例を発表する (AL⑤)。 ・敷地調査内容の調査内容を発表する (AL②)。 ・準備学習：敷地調査内容をまとめ、全体構想案を作成する。建築専門書や専門雑誌で類似事例のリサーチを行う。 ・課題：敷地模型、スタディ模型とスケッチを作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 10 建築設計課題「こどもの居場所」ー3 エスキース2 ・全体構想を立案する (AL①、AL②、AL③) ・準備学習：授業9を受け、全体構想案をまとめるためにスタディ模型とスケッチ（ブロックプラン、平面・断面スケッチなど）を作成する。 ・課題：敷地模型、スタディ模型とスケッチを作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 11 建築設計課題「こどもの居場所」ー4 エスキース3 ・スタディ模型とスケッチを元に全体構想を更に深く考える (AL①、AL②、AL③) ・準備学習：授業9～10を受け、全体構想案をまとめるためにスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 ・課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 12 建築設計課題「こどもの居場所」ー5 エスキース4 ・スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を元に全体構想を更に深く考える (AL①、AL②、AL③)。 ・準備学習：授業9～11を受け、更に全体構想案をまとめるためのスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 ・課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 13 建築設計課題「こどもの居場所」ー6 エスキース5 ・スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を元に全体構想を更に深く考える (AL①、AL②、AL③)。 ・準備学習：授業9～12を受け、更に全体構想案をまとめるためのスタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する。 ・課題：スタディ模型と各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）を作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 14 建築設計課題「こどもの居場所」ー7 エスキース6 ・各図面のプレゼンテーションボードを作成する (AL①、AL②、AL③)。 ・準備学習：授業9～13を受け、各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成する。 ・課題：各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成する (AL④)。詳しくは課題書で指示する。 15 建築設計課題「こどもの居場所」ー8 講評会 ・建築設計課題「こどもの居場所」の課題書を提出し、講評会を行う (AL①、AL②、AL③)。 ・準備学習：授業9～14を受け、各図面（配置図、平面図、断面図、立面図など）をプレゼンテーションボードにまとめ、模型を作成し、提出する。 16 再提出、アーカイブデータ作成、コンセプトテキスト作成 ・講評会時に不足事項があった作品について、図面および模型について再提出を行い、担当教員の確認を受ける。 ・第一課題（小学校）、第二課題（都市コンプレックス）について、プレゼンシートのスキャンデータ作成、模型写真撮影を行い、アーカイブデータとして学科サーバーに格納する。 ・年度末のアニバル作成に向けて、入賞者はコンセプトテキストの作成を行い、担当教員の確認を受ける。
授業形態	グループごとに対面式によるエスキスチェックを行う。発表は合同で行う。エスキスでは、模型、スケッチをあらかじめ準備し、発表では、プレゼンテーションパネルを準備すること。 複数の教員による同時指導を行う。 アクティブラーニング：①:14回、②:15回、③:11回、④:14回、⑤:3回、⑥:1回
達成目標	設計について以下の項目について習得する。 (1) 演習課題を通して、敷地、コンテキストの読み取り方を習得する。（基礎） (2) 演習課題を通して、コンセプトと設計の組み立て方の関係性を習得する。（基礎） (3) 演習課題を通して、配置計画、平面計画、断面計画、立面計画の作図および表現する技法を習得する。（基礎） (4) 演習課題を通して、社会における建築の役割を学び、設計案として提案する。（応用） (5) 演習課題を通して、光、風などの自然現象の扱い、構造、環境などの技術を空間へ結実させ、設計案として提案する。（応用）
評価方法・フィードバック	・評価方法は演習課題①②の提出物の採点による。（各50%） ・提出物は、授業時に提示する。評価結果をフィードバックする。
評価基準	提出物の総合評価による。 秀(1～5)100～90、優(1～5)89～80、良(1～5)79～70、可(1～3)69～60、不可59以下 ただし、カッコ（ ）内は達成目標の項目を示す。
教科書・参考書	教科書：「改訂版 名作住宅で学ぶ建築製図」藤木庸介他著、学芸出版社（建築設計・基礎で購入済） 参考書：それぞれの課題書で示す。
履修条件	「図学」「設計製図・基礎」を学習していること。
履修上の注意	・授業時のエスキスには、各自、スケッチや模型など検討材料を持参した上で、エスキスを受けること。検討材料が無い場合は出席と認められないので注意のこと。 ・第一課題・第二課題とも、中間講評会、最終講評会、双方への出席・発表が必須となる（万が一、欠席した場合、医師の診断書が必須となる）。中間講評会、最終講評会のいずれかを欠席した場合、当該の課題は認められず、次年度、再履修の必要があること。 ・提出物について、締切日時は厳守とするのは当然として、課題書に明記された提出物が一点でも無いものはビハインド扱いとし、一週間後までに全てを提出することで単位を認定するが、遅延を加味して評価を減ずるので注意のこと。

準備学習と課題の内容	・授業時のエスキスにはスケッチ、模型など成果物を持参する事。(予習 1.5h 以上) ・授業後に指導を受けて更に発展学習を行うこと。(復習 1.5h 以上) ・課題に応じて、関連図書、建築雑誌の購読を勧める。 ・設計は日常的な思考と作業の蓄積が重要である。課題進行中は継続的に作業を続け、毎週のエスキスチェックを到達点の目安とすると良い。
ディプロマポリシーとの関連割合(必須)	知識・理解: 20%, 思考・判断: 30%, 関心・意欲: 15%, 態度: 15%, 技能・表現: 20%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	